

変形性股関節症とは？

股関節の軟骨の破壊や変性が生じ、骨が変形してくる疾患です。女性に圧倒的に多く、原因としては先天的に股関節の被りが浅い臼蓋形成不全によるものがほとんどになります。初期の症状は長時間歩行後に脚の倦怠感、疲れやすいなどから始まり、進行してくるとしゃがみこみが困難になり、歩行時痛も生じてきます。末期では安静時にも痛みが出現し、日常生活に支障が出てきます。



治療

初期は保存療法になります。日常生活の指導、体重コントロール、筋力強化や関節可動域訓練の指導を行います。そのみでは痛みのコントロールが難しい場合は鎮痛剤の内服も合わせて行います。

これらの保存療法を行っても改善がなく、日常生活に支障をきたすようであれば人工関節などの手術療法を検討します。

実際の人工股関節

手術前

安全な手術を行うために全身の精密検査（血液検査、呼吸機能検査、心臓超音波など）を行い全身の状態を把握します。必要があれば内科ドクターと相談をしながら入院の準備を行います。

レントゲン、CT 撮影を行い、3D テンプレティングシステムでの正確な術前設計を行います。



3D テンプレティングシステムによる術前設計

実際の手術

術後の早期回復のために MIS (最小侵襲手術) による筋肉のダメージを抑える手術法を行っています。変形の程度によって前方侵入、後方侵入かを決定します。カクテル療法という鎮痛法を採用しており、手術で傷を閉じる前に股関節全体に数種類の鎮痛薬を注射することにより術後の痛みを最小限に抑えます。カクテル療法により手術当日の痛みを感じない人もまれではありません。傷は吸収される糸で皮膚の下で縫合する皮下縫合を行っているため術後の抜糸はありません。



手術後の経過

入院中の痛みを最小限に抑えるために飲み薬の鎮痛剤の組み合わせを翌朝から開始します。また、手術翌日からリハビリを開始します。平均の入院期間は2週間程度となりますが、長くリハビリを行いたい場合などは当法人のリハビリ病院で長期にリハビリを行うことも可能なため相談しながら決定します。